

愛

憎

「愛憎の果てに」等と言われますが、人間の胸中は複雑怪奇でわからない部分が多くあるようです。自分自身の心さえもわからないものです。おかしな犯罪が起りますと、心理分析などを分析いたしますが以外と的外れな事が結果的にはよくあります。犯罪件数は統計的に年々減少しているとは申しますが、理解の出来ない事件が多いようです。最近は、他人と言うよりも親族間の痛ましい事件が多いように思われます。浄土真宗の三部經の一つ「仏説觀無量寿經」があります。お釈迦様在世当時の親と子の確執の話です。

【お釈迦様が住んでおられた近くにマガダ国がありました。大変榮えておりましたが、国王ビンバシヤーラと后イダイケには一つの大きな悩みがありました。それは後継の王となる子供がないなどいうことでした。そのことを占い師に相談しますと「近くの山に仙人が住んでいますが、この仙人はあと三年で亡くなります。その後この仙人が、お二人の子供としてお生まれになりますのでその間お待ちください」と、告げられました。このことを聞きますと二人は三年も待てなくなり、家来を仙人の住む山に送り込み、殺してしまいました。仙人は恨みを持つて死んでいきました。その後イダイケは、すぐに身ごもりました。王様は又占い師を呼びました。占い師は「男の子が生まれましょう。しかし仙人の恨みがありますので、やがて両親に對して災いを起こします」と告げました。思い悩んだ王様夫妻は高い場所から産み落とし殺そうとしましたが、奇跡的にいのちが助かり、泣き声を聞きますと、不憫に思い育てる決心をいたしました。後継ぎとして、育てられた王子をアジャセと申します。年月が過ぎ青年となつたアジャセは、お釈迦様の従兄弟のダイバダッタに唆され、自身の出生の秘密を聞かされました。アジャセは激昂しクーデターを起こし父の王を幽閉し牢獄へ閉じ込め、食物や水を一切与えないようにします。後のイダイケは、密や食物を体に塗り込め面会に行き、夫に与えます。それを知つたアジャセは、激怒し母親も牢獄へ閉じ込めてしまいます。イダイケは嘆き悲しみ、お釈迦様に助けを求められその時に説かれたのが「觀無量寿經」です。イダイケは最初に「どうして私はこんな悲しみや苦しみを与えられなければならないのか」というような愚痴ばかりを言います。お釈迦様は何も言わずに黙つて聞いているばかりでした。イダイケはやがて話せば話すほど自らの愚かさに気づいていくのです。】

自分の欲望や願い事が叶つていくのが宗教の役割と思つてゐる方がたくさんおられます。自己中心的な考え方が多く悲劇を生み出していく原点と言ふことを説かれています。

この話は関わつた全ての人が、自分勝手な心を推し進めたために起つた事件です。季節は3月、受験、就職、転勤、異動、変わり目の季節でもあります。

【合格祈願、昇進祈願、あちこちで欲望をかなえてもらう場が大流行です。しかし【自分だけが良ければ】と言うことが【合格あれば不合格あり】【昇進あれば降格あり】【勝ちあれば負けあり】ということに少しの思いを馳せられたらと思います。

この話は遠い昔のインドの話だけでなく今を生きている【私】の問題として受け止めたいものですね。